



島のあとつぎを、 牡蠣でふやさんだ。

この島の姿は、数年後の日本の漁村だ。
東日本大震災によって過疎化が急速に進んだ、宮城県塩竈市の桂島。島では、
日本各地の漁村がやがて突きつける深刻な課題に先行し直面している。
牡蠣養殖のあとつぎとして移住者をふやすプロジェクトが始めている。
その中心にいるのが、一般社団法人 浦戸夢の愛ランドの三浦勝治さん。
震災のちょうど1か月前に桂島へ移り住んだ三浦さんは、
被災しながらも自ら進んで復興活動に取り組んだ。

移住者の夢や希望が、島の未来を明るくする。
その時、復興のボランティアとしてこの島を訪れていたのが、
このプロジェクトで移住を決意した大場智行さんだ。
漁業経験はゼロだったが、約2年かけて牡蠣の養殖技術を学び、
今ではほぼ一人で海での仕事を仕立てている。
「夢や希望を失った人にこそ、この島に来てほしい。
そんなものは、ここで生活しながら島のみねと一緒につくればいい」
そう語る三浦さん。移住者たちがこの島で育む夢や希望が、
きっと、桂島の未来を明るくしていく。

農林水産業みらい基金は、助成金を通じて、
牡蠣養殖後継者の確保・育成をサポートしています。

ひろがれ！
みらいの
農林水産

一般社団法人
浦戸夢の愛ランド
(宮城県 塩竈市)



一般社団法人
農林水産業みらい基金

未来は、いつだって、現場から生まれる。私たち農林水産業みらい基金は、JA（農業協同組合）・
JF（漁業協同組合）・JForest（森林組合）グループの一員である農林中央金庫によって設立されました。

詳しくは [農林水産業みらい基金](http://www.miraikikin.org/) 検索
<http://www.miraikikin.org/>

